

地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

平成28年8月発行 NO-56

地域リハ支援センター

未来につながる

ロボットを活用したリハビリテーション!

「さがみロボット産業特区」の一環で、
現在神奈川リハ病院で行っている脊髄損傷者に対する取り組みについて紹介。

再生医療に向けた歩行再建戦略!



脊髄再生医療の実現が現実的になってきている今、その後のリハビリテーションの重要性が一段と高まってきています。



今回、実際にReWalkやHALに触れて、動かす体験をしながら学習しました。なかなか触れることが出来ないとあって貴重な研修となりました。(一木 愛子)

【講師】

神奈川リハ病院

リハビリテーション科医師 横山修
理学療法科 鳥山貴大 浅井直樹

◆OT ハンドリング入門(7月2日開催)

ハンドリングの基礎であるタッチの仕方、動かしたい方向への誘導、持ち方による違い、上肢と体幹・下肢との関係性、上肢とバランスの関係などについて、実技を交えながら学習し、その後はアクティビティへの介入するにあたっての評価の視点や介入のポイントなどについて実技を通して学習しました。(一木 愛子)

【講師】神奈川県立保健福祉大学 玉垣努氏

七沢リハ病院脳血管センター 作業療法科 吉澤拓也 宮内繭子

【アシスタント】七沢リハ病院脳血管センター 作業療法科 斎美緒 中澤典子 井上彰太

神奈川リハビリテーション病院 作業療法科 工藤恵梨 森田夏未



◆機能訓練指導員研修(7月6日・7日開催)

2日間を通して、疾患別、高齢者をキーワードに機能訓練の基本的な考え方や自分の身体を整える体操、いろいろなレクレーションの目的や考え方、運動による認知症予防コグニサイズについて、皆さんで実際に体験しながら学習しました。

(一木 愛子)

【講師】横浜 YMCA 学院専門学校 金山桂氏

介護老人保健施設 めぐみの里 安藤岳彦氏

神奈川リハビリテーション病院

理学療法科 内山陽彦 堀田夏子 / 作業療法科 梶原聖史 / 体育科 鰻田亜矢



◆今後の研修の開催予定

研修名	開催日	開催場所
(新) 視覚障害のある方への支援	9月13日(火)	神奈川リハ病院
車椅子シーティングの理論と実際	9月22日(木・祝)	神奈川リハ病院
身体機能障害の理解	10月4日(火) 11日(火)	アミューあつぎ
PT・OTのための土曜教室	10月～2月の土曜日 月1回開催	神奈川リハ病院
住宅改造・改修セミナー	10月15日(土)	横浜市内
褥瘡予防セミナー	10月18日(火)	神奈川リハ病院
脳血管障害のリハビリテーション	復職支援編 10月22日(土)	神奈川リハ病院

リハビリテーション研修

～地域リハビリテーションを担う人材育成をめざして～

1. 地域でのリハビリテーションの役割

2025年の問題、戦後のいわゆるベビーブームに生まれた世代が75歳の後期高齢者の年齢に達する年が2025年であることはご存じだと思います。これに向けて国は地域包括ケアシステムを推進しています。医療、介護、福祉などの分野が連携し、高齢者や障がい者を問わず、地域住民が安心して住みやすい街づくりが期待されています。こうした中リハビリテーションの役割の一つは、障がいや高齢化による不自由さを軽減し、一人ひとりが社会活動に参加できる環境の整備を行い、生き生きと、そして安心して地域生活が送れるようにすることです。

2. リハビリテーション研修を通じての地域支援

リハ研修は、地域リハビリテーション支援センターが担っている事業の大きな柱の一つです。地域で支援をされているPT、OT、ST、保健師、看護師、ケアマネ、介護職員、施設職員などの方々に対し、リハビリテーションという切り口から色々なテーマの研修を実施しています。リハセンターがこれまで蓄積してきた専門的な技術・知識を習得していただき、それぞれの地域や職場で活用してもらうことで、地域でお住まいの障がい者や高齢者の方のリハサービス向上につなげることが、この事業の大きな目的となっています。

3. 受講者と研修講師

過去5年間で延8,502人の多くの方が受講されました。年平均では1,700人余りとなります。平成27年度は33の研修に176の講座を行い、132の方に講師を務めていただきました。その内当事業団以外の機関などから41名の方、当事業団職員は91名で、講師や実技・実習等のアシスタントなどを務めました。講義内容は日々の仕事の中で培われた専門的な知識・技術をもとに、最新の情報や技術を、さらには地域での実践を取り入れた内容となっており、アンケートでも多くの方から高い評価をいただいています。今後ご意見やご要望を取り入れながら、「地域に貢献できる」研修を企画してまいります。

(泉 忠彦)

リハ専門相談 事例紹介シリーズ ②

住環境を見直す。心の段差を低くする。

今回は、住環境の整備の事例についてご紹介します。障がい者の相談支援専門員の方からの1本の電話がきっかけでした。事例は10代後半の脳性麻痺の方で、移動には車椅子の介助を必要としていました。道路から自宅玄関まで20段以上の外階段があり、体重50kg弱の本人を母親が抱きかかえて移動していました。高等学校卒業後送り迎えの時にヘルパーの介助を受ける予定であり、安全に移動できるための方法についての助言を求められました。

地域支援室のSW、PT、リハビリテーション工学科職員が自宅に訪問し、住環境を確認すると、道路から玄関までの高低差は3m近くあります。また、自動車が通れるようにと段の一部が斜めに削られており、介助者にとっての不安要素となっていました（写真①）。

住宅改修によって階段昇降機（写真②）を設置する方法、スロープと昇降機（写真③）を設置する方法が考えられました。階段昇降車（可搬型階段昇降機）（写真④）などの福祉用具の利用も介助者の負担軽減と安全確保には良いと思われました。福祉用具業者の方に現地の確認とプランの提案をお願いしたところ、住宅改修では数百万円の費用がかかること、階段昇降車は雨天時に使用できないことなどの制限があることが分かり、すぐには導入できないことが分かりました。

次に人的介助を中心に車椅子ごとの介助、背負い（おんぶ）介助、2人抱え上げ介助について検討しました。背負い、2人抱え上げ介助用の福祉用具として



写真② 階段昇降機



写真③ 昇降機



写真④ 可搬型階段昇降機



写真⑤ 移送帯

移送帯があります（写真⑤）。家族、ヘルパーと相談したところ、体重が50kg弱と介助者の負担が大きいため、移送帯を使った2人介助を行うことになりました。移送帯を使うと、いざという時には両手を離しても肩のストラップにより対象者が転落することがありません。これにより、毎日の移動で双方の負担の軽減と安全性が確保されました。

楽しい慣れ親しんだ住まいの状況を大幅に変えるには、経済的な負担も含め、色々な意味で勇気のいることです。介護保険制度や身体障害者手帳をお持ちの方であれば各自治体の助成を受けられる場合もあります。助成を受けるのは1度きりの場合も多いですので、どの部分に力点を置いて改修するのが良いか、将来の変化も視野に入れたプランの検討をすることで、安心して長く暮らすことのできる住まい作りができると思います。

（平田 学）

4～7月	相談件数	訪問件数	来所件数
神経・筋疾患	10	3	1
脊髄損傷	6	0	2
脊髄疾患	8	5	1
骨関節疾患	5	3	0
脳性麻痺	19	11	5
脳血管障害	7	2	1
後天性脳損傷(CVA以外)	3	0	1
内部疾患	3	0	0
知的障害	5	2	0
その他(加齢・切断等)	2	0	1
合計	68	26	12

訪問・来所の目的	訪問件数	来所件数
補装具福祉機器	11	2
住環境整備	5	3
身体機能評価	4	0
ADL指導	1	0
訓練プログラム指導	2	0
介護指導	2	0
支援検討 他	1	6
医療	0	1
合計	26	12

高次脳機能障害セミナー 小児編

7月9日(土)におださがプラザ(小田急相模原)にて高次脳機能障害セミナー小児編を開催しました。昨年同様60名を超える参加がありました。支援者を対象とした内容で、「安定した生活を目指して～教育・日課・家族支援～」をテーマとした講演を行いました。講演は、当神奈川リハビリテーション病院の小児科医師からは「小児脳損傷の理解」、臨床心理士と言語聴覚士⇒「安定した生活に向けた評価」、作業療法士⇒「安定した生活に向けた基礎的なアプローチ」、看護師⇒「病棟生活でのアプローチ」、医療ソーシャルワーカー⇒「地域生活をふまえたアプローチ」、そして秦野養護学校・かもめ学級(当病院内学級)の先生から「教育場面でのアプローチ」という内容でした。今年度は初めて看護師による、病棟生活の視点からの講演を行いました。

小児の場合、医療、障がいだけではなく、療育や教育機関と、小児ならではの多職種連携が大切になります。教育や医療等、全く異なる分野での連携になりますので、お互いの理解が必要不可欠だと思います。今後も多職種を意識しながら、日々の支援に役立つような講演を考えていきたいと思います。(佐藤 健太)



神奈川県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会

7月19日に平成28年度第1回神奈川県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会を開催しました。この会は、県内の高次脳機能障がいの支援をしている機関の方に委員として参加していただき、情報交換や事例検討を行うことを目的として、年2回開催しております。今回のネットワーク連絡会では、精神障害者手帳、当事者・家族会、医療機関等についての情報交換と事例検討を行いました。高次脳機能障がいの方は、精神障害者保健福祉手帳や障害年金の更新が必要な方が多いため、医療機関との繋がりが大事になります。拠点機関だけではなく、地域の医療機関にもご協力いただきながら支援を展開できればと思います。

また、当事者・家族会は県内5か所で開催されており、新たに鎌倉で当事者会が開催されました。支援者だけではなく、当事者・家族会と一緒に支援をしていく環境が、地域で生活していくうえで大きな支えになると考えています。今後も各機関と連携しながら支援体制の充実を図っていききたいと思います。(佐藤 健太)

編集後記：やや涼しかった7月、暑い8月、そして食欲の秋？ いえいえ、食いしん坊の秋も美味しそうですが9月10月11月と当地域リハ支援センターの研修が目白押しです。研修を受け、知り合いと一献囲みながらワイワイガヤガヤと、初めて会った人とも専門の話や情報交換もいいですね。これ、結構ネットワーク作りに貢献度は大です。でも、飲みすぎはいけません。小生はこの点はいつも反省ですが、楽しい秋をお過ごしください。(泉 忠彦)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516
社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
TEL:046-249-2602 FAX:046-249-2601